



森の里の紅葉（撮影：小林会員）

令和6年12月号 Vol. 248
(2024年)

発行：令和6年12月7日

あつぎ観光ボランティアガイド協会

ホームページ <https://atugikanvola.sakura.ne.jp>

メールアドレス atugikanvola@yahoo.co.jp

発行責任者 会長 田頭 文昭 編集担当者 澤田 正弘

<綾瀬の先史時代の3遺跡巡り>

行事区分：訪問ガイド研修（主催：かながわガイド協議会）

日時：10月30日（木）9：30～12：30

場所：綾瀬市役所～吉岡遺跡群～道場窪遺跡～神崎遺跡公園

参加者：会員3名

10月30日に担当団体：綾瀬市史跡ガイドボランティアの会の研修会に参加してきました。相模川左岸、相模野台地にある石器時代（38,000年前頃）の吉岡遺跡、縄文時代中期（5,000年前頃）の道場窪遺跡、そして弥生時代後期（1,800年前頃）の神崎遺跡を巡る古代遺跡ツアーでした。



相模川支流の河童伝説とカワセミの遊ぶ目久尻川沿いの遺跡を巡るコースでした。

当日もカワセミが川中の杭の先に止まっているのが見えました。吉岡遺跡、道場窪遺跡はいずれも現在は埋め戻され県や市の施設が建てられて遺跡そのものを見ることは出来ませんでした。



吉岡遺跡では県水道関連の綾瀬浄水場の建物屋上から「眼下のあのあたり周辺が遺跡群です・・・」と説明を受ける事が出来ましたが、現地現物（石器等）が見えない中で数万年前の祖先たちの生活をイメージする

するには相当の古代史基礎知識と想像力が必要だなと感じるツアーでした。

日本に人類が到達したのは約38,000年前以降だと言われているので、大陸から移動してきた初期の時代に相模野台地を選んで生活していたことは、対岸に住む私達にも太古のロマンを想像させ感じさせるコースでした。

道中で他の観光ボランティア団体の方々にお声掛けして活動内容や会員増員方法等をお聞き出来たことも交流会ツアーの勉強になる点だと思いました。



最後に、研修会ツアー中、朝から疑問だった綾瀬市の市名の由来について、ツアー最終の訪問地、神崎遺跡資料館の女性学芸員の方にお尋ねしたところ、いろいろ説があるようですが「この地区は古くから養蚕が盛んだったので絹で織る綾にちなんだのでしょうか・・・？あるいは当地は湧き水も豊富で川の瀬が綾をなすように流れていたことから・・・？」という説もあります」との優雅な説明に、あつぎ観ボウ参加者3名は大きくガッテンと納得し、徒歩6キロの心地よい疲労感のなか帰路につきました。（眞野記）

《秋季入込観光客調査》

行事区分：行事支援

日時：11月10日（日）9：00～16：00

場所：厚木市内5拠点

参加者：10名

飯山温泉（中飯山自治会館）

調査は曇り空のスタートでしたが、正午前の小雨もすぐに上がり、曇りの一日でした。飯山へ訪れたお客様は今までにない多くの方でにぎわっていました。飯山花の里のざる菊がTVの天気予報で紹介されたこともあり大人気でしたが、ざる菊販売の最終日でもあり、販売された後の花畑は寂しくなっていました。花の盛りのざる菊は見ごたえがあるので早めに訪れた方がよさそうです。



坂東三十三観音巡りの方には長谷寺境内で仲間が案内していると紹介したところ、帰りに丁寧に説明していただいたと喜んでいました。高齢のご夫婦は飯山観音の参拝に訪れましたが石段の2段目で上ることが出来ないと諦め、残念そうに帰って行かれました。

楽しい交流もありました。湘北短大の学生さん達が20名以上の大勢で飯山観音の研修に訪れました。私達も一緒に記念写真に納まり、大学のHPで紹介されるかもしれません。近くの龍蔵神社では宮司さんにより七五三の祈祷が行われ、きれいに着飾った参拝を終えたお子さんが訪れてきました。飯山で色々なイベントがあると多くのお客様が来てくれることを実感しました。（森島記）

相模川三川合流地点（青少年広場）

前日の天気予報どおり、朝から曇りがちの一日でした。11時ころから小雨模様となり心配しましたが、約30分後には雨も止み予定どおりの入込調査ができました。天気



いでか河川敷には人出も少なく、約7グループがテントでバーベキューを楽しんでいました。相棒のSさんがアンケートを取りに伺ったグループは藤沢市から来たというご夫婦と、ご近所の若い人たちの10人ぐらいの皆さんで、アルゼンチンのストリートフードという焼き立てのソーセージとパンを1個いただきました。ふたりで半分ずついただきましたが、美味しかったです。こんな体験は初めてでした。我々の調査場所の目の前の階段広場には、サイクリングスタイルに身を固めた若い男女が約10人集まって来て、宮ヶ瀬までサイクリングだと出掛けていきました。聞くところによると、湘南ベルマーレ・スポーツクラブ

と言うグループで毎週末活動しているとの事でした。その若い行動力は羨ましいですねー！

一方桜広場の野球場では少年野球の練習試合があるとの事で、朝早くから親子が集まって来て、10 時頃から練習がはじまり、11 時頃から試合がはじまりました。親子合わせて約 100 人位の集まりで、大変盛り上がっていました。やはり若さは良いなあと思いました。我等観ボラ熟年も日々目標をもって、有意義な時間を過ごしたいものです。

(山下 武敏記)

《勉強会「七沢元湯玉川館ゆかりの人々」》

行事区分：会員研修

日 時：11 月 9 日（土）11：30～12：30

場 所：厚木市民交流プラザ ルーム 602

講 師：七沢温泉 元湯玉川館 山本淳一様

参 加 者：一般参加 4 名、会員 13 名



11 月定例会終了後に、七沢元湯玉川館のご主人山本淳一様をお迎えして、同館ゆかりの著名人についてお話をいただきました。ご主人のお母さまの茂子さんが、国語の教師だった県立厚木高等女学校の高井宮吉（中村雨紅）先生の教え子でした。偶然の再会から三代目ご主人（山本鈞二様）共々お付き合いが始まり、夕焼けのきれいな時はスバル 360 でご自宅までよく迎えに行くと、奥様共々楽しみにお待ちになっていたそうです。

全国に「夕焼け小焼けの碑」があるそうですが、厚木に「夕焼け小焼けの碑」がないと言う雨紅の言葉から碑の建設となり、昭和 37 年 11 月に建立され、その際雨紅が月光石を使用するなど石材にこだわっていたそうです。碑の下部には雨紅が書いた「松の木や子供たち」があり、上部には「烏」の絵があるがこれは当時の玉川中学の杉山勇先生に書いていただいたそうです。

昭和 47 年 5 月 8 日県立厚木病院で 75 歳の生涯を終えられましたが、見舞いに行ったその病室の窓は、丹沢の山並みに夕日が見れる西側だったそうです。同館ゆかりの著名人として中村雨紅以外に鱗雲の作家和田傳、のらくろの田河水泡、金作行状記を書き上げた山本周五郎等々のご縁についてもお話がありました。会員 13 名の他、9 月 6 日の企画ガイド「七沢ゆかりの人々を訪ねて」にご参加いただいた 4 名の方も加え 17 名で、貴重なお話を伺うことが出来ました。

(鈴木 記)

《あつぎこどもの森公園と野草園の花ハイキング》

行事区分：会員研修

日 時：11 月 13 日（水）9：00～13：20

場 所：荻野神社～六郎屋～あつぎこどもの森公園

参 加 者：会員 7 名

今日は、小春日和で 11 月とは思えない暖かい中、気持ち良く歩きました。次年度新企画としての「あつぎこどもの森公園と野草園の花ハイキング」（仮称）の検討ハイキング

です。「あつぎこどもの森公園」は銅座金山（どうざかなやま）と呼ばれ、横に流れる荻野川には銅座橋、金山橋の名の橋があります。銅座とは銅を鑄造した場所ですが、銅、金が採取できたような歴史ロマンを感じ、良いものがありそうな、見つきりそうな気持ちになります。

公園へは北方面の市谷戸から入ります。荻野神社から六郎屋の道標を通り、荻野川の弁天橋を渡り、金山橋へ。上流の湧水から流れてくる荻野川の水は澄んでいてとても綺麗です。川沿いを銅座橋へ、ここから市谷戸に、車両進入禁止の立て看板の横から細い道へと入ります。川や湧水で出来た湿地帯は、蛍、トンボの生息地となっています。この周辺は春には白花オドリコソウ、他の野草が咲きますが今は落葉です。

“こならの丘”を目指し進みます。春にはキンラン、ギンラン、ギンリョウソウ、ジュウニヒトエ等を見ることが出来る道です。こならなどの樹木の根と共生する菌根菌植物のキンラン、ギンリョウソウが厚木の町に近い場所で守られ数多く咲くのは驚きです。

こならの丘に到着。ここにはアオダマの木があります。毎年は咲かない花が、来春、真っ白く咲くと良いです。作業小屋に下り、昼食。午後は空中回廊を歩き、シンボルツリーくぬぎの大木がある“くぬぎの丘”に上がります。視界が開き、厚木の町が一望です。明るく、気持ちの良い丘です。中央口に向かい管理棟の側にある、6万6千年前の箱根火山噴火の火山灰堆積、宝永噴火の火山灰堆積の露出地層を観察。はっきりと綺麗な地層です。

こどもの森公園から野草園に移動。野草園は晩秋で花は終わり、紫のリンドウが咲いていただけでした。12月からは冬季休館となります。来春3月からの野草が楽しみです。企画としては、春のキンランの咲く4月下旬を予定とした内容ですので、花の無い今季はイメージするのが難しかったかもしれません。厚木市最古の、自然石をご神体とした荻野神社をスタートし、六郎屋、荻野川沿いを歩き、こどもの森公園のルートは子供連れではなかなか歩かない道を歩きます。春の新緑の中、どれだけの花を探ることができるでしょうか。野草や樹木を案内するにはまだまだ勉強が必要ですが、花を楽しみながらゆっくりゆっくりと歩く良い企画が出来ればと思います。 (菅谷 記)

当日見つけたお花



ササリンドウ



ホトトギス



《 四国八十八か所巡礼 (最終回) 》

清田 邦男

今回は 2 回目の遍路ですが、令和 2 年に行った時と比べ二つ変わったことがありました。一つは、行く先々で「逆打ちですか」と尋ねられることです。徳島→高知→愛媛→香川と時計回りに回るのが順打ち、反対回りに回るのが逆打ちです。弘法大師は今も四国を歩いておられるといわれています。当然順打ちです。順打ちでは弘法大師の前を歩いても後ろを歩いても会うのは難しい。しかし、逆打ちならどこかで弘法大師に会えるということです。今年うるう年ですが、うるう年は逆打ちの年とされ、御利益も大きいといわれています。これは遍路の元祖衛門三郎の伝説が元になっています。弘法大師にひどい仕打ちをした衛門三郎は子供が亡くなる不幸に見舞われ、弘法大師にお詫びするため遍路に出ますが、20 周回っても会えません。そこで逆打ちで回り会うことができました。その年がうるう年だったのです。私も御利益が大きい逆打ちに挑戦したいところですが、逆打ちは道に迷いやすく、順打ちでも迷ってしまう私には無理ですね。

さて、もう一つの変ったところは、前回コロナ禍で外国人はほとんどいなかったのですが、今回は札所や宿で多くの外国人と出会いました。遍路 3 日目は、6 時に宿を出て、遍路ころがしの難所で、弘法大師が妖火を吐き行く手を阻む大蛇を法力で封印した伝説が残る 12 番札所焼山寺に向かいます。7 時に昨日参拝した 11 番藤井寺に到着、寺の前の素泊まりの宿で知り合いの遍路を見かけ挨拶をかわします。寺を通り抜け、登山道に入ります。途中外国人の二人連れに会いました。一人は前日 6 番安楽寺に行く途中、道がわからず不安そうに歩いていたので、寺まで同行したフランス人の F 青年。連れの男性は 81 歳のオランダ人 D さん。今回で遍路 6 回目だそうです。にこやかな笑顔の人で、上り坂は大変そうでもうギブアップかなという様子ですが、平らなところに来ると軽やかに進むので、片言の英語で「オランダ人は平地では足が速い。」というと、笑いながら「オランダは平地で山はない。」と返してきます。

最初は片言の英語でのやり取りでしたが、K 会員から教えてもらってダウンロードした音声翻訳ソフトボイストラを使い、F 青年に話しかけると彼は文字入力の翻訳ソフトで返答していましたが、やがて私のスマホを取り上げ、音声入力で会話するようになりました。ボイストラの力おそるべし。

焼山寺は、藤井寺から 13km、標高 700m。長い登りの後、弘法大師が野宿したと伝えられる杉の巨木がある浄蓮庵(標高 745m)から下りになります。

下りに入った辺りで、D さんは足の痛みを訴えるようになり、湿布薬を差し上げましたが、つらそうな様子です。F 青年は先に行き、私が D さんに付き添いました。



浄蓮庵から左右内谷川へ下る途中

左右内谷川（標高 400m）で下りは終わり、きつい登りになりましたが、D さんを励まし、休みながらゆっくり登りました。D さんはきつそうでしたが、正午前に笑顔で焼山寺に着くことができました。



焼山寺には、F 青年のほか、初日の宿で一緒だった S さんや O さんがいて、弁当を食べながら歓談。外国人 2 人は前夜 S さん達と同宿だったそうです。S さんから今夜の宿が私と同じだという栃木県の T さんを紹介され、4 人で下山。

衛門三郎が弘法大師に会って息を引き取り、大師がその杖を墓標としたところ、杖が杉の大木となった杖杉庵（その杉は残念ながら江戸時代享保年間に焼失したそうです。）を通り鍋岩へ。ここで S さんは舗装路を行き神山温泉へ、残りの 3 人は江戸時代の遍路道玉ヶ峠越えの山道へと別れました。

杖杉庵の杉の巨木の前で S さんはこの後 19 番立江寺まで打ち、帰宅されましたが、その後も LINE で皆の消息を聞き取り、その情報を我々に発信してくれました。

このようにして遍路を続け、5 月 8 日の 1 番札所の参詣から、6 月 20 日 88 番大窪寺で結願、22 日高野山奥の院大師霊廟に報告し、同夜無事帰宅することができました。

遍路にあたってお世話になった方々に心からお礼申し上げます。

南無大師遍照金剛 合掌



3 日目の宿、植村旅館の部屋から見た鮎喰川

最近の活動

日付	場所	内容	参加者
11月3日、10日 17日、24日 12月1日	飯山観音	定点ガイド	会員 9名
11月9日	アミューあつぎ	定例会	会員 16名
11月9日	アミューあつぎ	勉強会 「七沢元湯玉川館ゆかりの人々」	会員 13名
11月13日	荻野地区	会員研修 「あつぎこどもの森公園と野草園の花ハイキング」	会員 7名
11月22日	秦野市	下見 企画ガイド 「権現山、弘法山ハイキング」	会員 6名
11月28日	愛甲地区	下見 企画ガイド 「愛甲三郎の歴史を訪ねる」	会員 4名
11月29日	秦野市	企画ガイド 「権現山、弘法山ハイキング」	会員 7名
12月2日	小鮎公民館	編集会議	会員 2名

編集後記

次年度の企画ガイド（ハイキング）検討会があつぎこどもの森公園で行われました。4月～11月はヤマビルの活動時期であり、また最近の地球温暖化により7月、8月の屋外での活動は熱中症の危険性が高まっています。またお客様も私達ガイドも高齢化が進んでいます。健康増進や、自然とのふれあい、草花の鑑賞などハイキングへの人気は相変わらず続いています。検討にあたってはガイド場所や開催日の選定が以前より難しくなってきました。

編集委員 阿部 啓冊 小林 直樹 澤田正弘